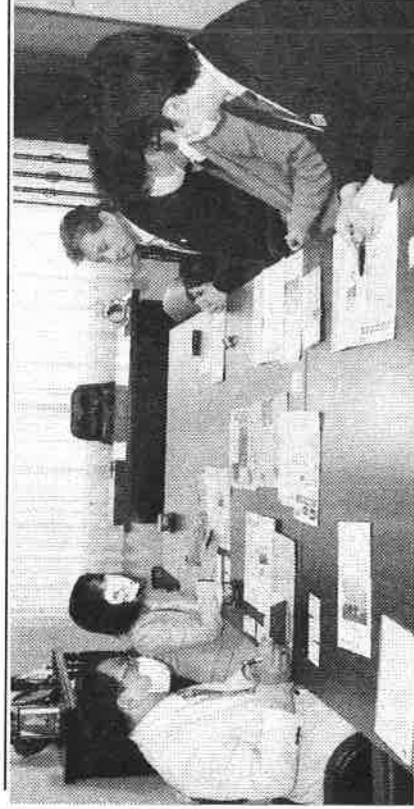


鳥取民報への
意見をお寄せく
ださい。

2020年 4月 12日
発行所 鳥取民報社
〒680-0921
鳥取市古海1114
Tel. 0857-22-8369
fax 0857-22-8360
月 200円
定価



中央会の(右から)西尾、徳田、松本の各氏と懇談する(左から)塚田、市谷の両氏

事業と雇用の維持を最優先に支援を

共産党 県中小企業団体中央会と懇談

日本共産党鳥取県委員会の市谷知子県議 塚田成幸書記長は8日、鳥取市の県中小企業団体中央会を訪れ、新型コロナウイルス対応について懇談しました。同会の松本浩彦事務局長、徳田知治企画振興部長、西尾浩一郎副会長が対応しました。

市谷氏は「企業の事業継続と雇用の維持を最優先で支援する必要がある」と塚田氏は「自衛と補償をモットで考えないと実効性ある感染対策はできない」と指摘し、中小企業の現状や要望を聞きました。

松本事務局長は、観光・宿泊業にとまらず、全業種に影響が及んでいるとして「いつまでも続く」と踏ん張れない」と訴え、サウスイーチェーンが切れた部品が外部に頼れず、地元の連携で地産地消を進めていると伝えるなど述べました。

西尾次長は、雇用調整助

成金の6割支給の引き上げと期間100日の延長、家賃などの固定費の助成、損失補填などを要請。「自衛要請でも客が来ない。融資は返せない。店やバスや旅館も売的上げが半減し、後継者不足で事業継承できない。県の産業成長応援事業も3分の2補助

がうちの補助になったと訴えました。市谷氏も「事態が落ちていく観光客が戻っても店がなくなるとは意味がない。県がマスク製造に助成したように、地元企業が継続するよう助成し、地元でお金を回すことが大事だと応

共産党が鳥取労働局と懇談

観光・製造業・飲食業に打撃

日本共産党鳥取県委員会の市谷知子県議 塚田成幸書記長は8日、鳥取市の鳥取労働局を訪れ、新型コロナウイルス

の影響などについて懇談しました。労働局の黒坂楨也職業安定課長らが対応しました。

市谷氏は、企業の求人状況や雇用環境について聞きました。

黒坂課長は、2月の新規の求人数は前年同月比で107人減の5704人と特に減っていないが、求職者は972人減(21.5%減)の2089人だと紹介しました。

県内の製造業の求人が前年同月比で38.2%減していることについて、中国が

鳥取市の西洋料理店

客来ず月15万円の出血

日本共産党の伊藤幾子鳥取市議は8月28日夜、党の緊急コロナアンケートで苦境を訴えた西洋料理店を訪れ、店主の男性(68)から現状を聞きました。

市の繁華街の一角に店を構える男性は、家賃や水光熱費、電話代、ガソリン代など人件費を除く固定費が月に約30万円かかるが、今年に入ってめっきりと客が来なくなると嘆きました。

アルバイトは自身持機で一人で切り盛りしています。伊藤氏が、県が無利子・無担保の融資を創ったと紹介すると、住民税や国保料の滞納

ら部品が入ってこないために操業できず、人手がいらないのではないかと推測。宿泊業・飲食サービス業の求人も21%減っているのは、中国からの観光客がストップしたため、宿泊のキャンセルが多く、飲食業、宿泊業ともに大打撃だと述べました。

また、観光地をはじめ幅広い業種に影響が出ており、3月の数字ではさらに加速するだろうと話しました。

塚田氏は、事業の縮小、収入減による失業や解雇が増えないよう雇用調整助成金の活用が大事だと述べ、黒坂課長は要件緩和されたのでぜひ申し込んでほしいと応えました。

客が激減した」といいます。店を開けるだけで1日1万円以上の経費がかかり、週に客が20人以上ないと赤字です。「月に10〜15万円の赤字が発生している」といいます。

早朝の時〜5時まで清掃のアルバイトで月6万円、年金と合わせて10万円を家賃を払って生活しており、生活費を削って店の赤字を補っていますが、足らず、個人からの借入れでしのいでいる状態です。

伊藤氏が、県が無利子・無担保の融資を創ったと紹介すると、住民税や国保料の滞納

若者が要求から出発して政治変革へ 三朝町 三朝革新懇話が岡田衆院1区候補招く



県内の青年の動きについて語る岡田候補

三朝町の三朝革新懇は3月24日、日本共産党の岡田正和衆院1区候補を招いて交流しました。

岡田候補は、昨年の参院選で中部の青年グループが各候補に対し、自分たちの「困りごと」をカタコタにして、どう対応してくれるのかと質問状を送ったところ、

中林佳子候補の関係者から返事が来たとして中林さんを支持したことを報告しました。

そして、「青年たちは自分の生活や願いから出発して『政治に対し意見を言っているんだ』と気付いた。こうした活動を通じていけば、自分たちの手に政治を取り戻せる」と述べています。

さらに、「青年らが、自分たちのことを受け止めてくれると支持するものが、共産党や野党の若手議員だ。こうしたグループが東部や西部にも広がっている」と紹介しました。

また、環境活動家のグシタさんや若者たちが自分たちの未来のために立ち上がっているとして、彼らを支えたい。若者の頑張る姿を自分の身の周りに語ってほしいと呼びかけました。

参加者は「孫にも岡田さんの話を聞かせてやってほしい」と交流しました。

があるため借りられないと述べました。要請を聞くと「まじろにしてほしい」と話しました。

鳥取市の豆腐屋売り上げ4割減 料理店に客来ず なべも出ず

鳥取市の小さな豆腐屋で高齢の夫に代わって店を切り盛りする女性(66)は、消費税増税と新型コロナウイルスの影響で、前年比で売り上げが2月は3割減、3月は4割減と苦境を語ります。

女性は、娘2人の出勤前夫の手を借り朝5時から最低ロットの32丁の豆腐を作っています。

1丁は大振りだ値段は250円。完売しても1日800円です。料理店、居酒屋、旅館、個人の顧客相手に売っていますが、今週の火曜日はお店には1丁も売れなかったといいます。

「今季はカニが高くてカニなべが出なかった。消費税とコロナの影響で客足が途絶えたと悩んでいる」と述べ

ました。売れ残った豆腐はがんもどきや揚げ豆腐に加工して売っていますが、豆腐は2日か限度でそれを過ぎると廃棄していると話しました。

商工会議所を窓口に関の無利子融資を頼んだが金融機関に断られたといいます。「事業主の夫が高齢だから」という理由ですが、金融機関のカードローン(借約1万円)の払いが遅れたのが原因だろうと推察します。県の融資で返済する予定です。

通常だと月の売り上げが16万円程度ですが半分は経費に消え、夫と自分の年金で暮らしているといいます。

